

能登町文化財レスキュー^{ニュース}News

第13号 発行日：令和6年11月1日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは？

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

能登町立美術館特別展示「救出された地域の歴史・文化資料」

文化財レスキュー活動でどのようなモノが救出されているのか、どんなモノが見つかったのか、町内外の方々に見ていただき、レスキュー活動の重要性を認識していただく機会として、特別展示を実施しました。

展示品には、一般の方でもわかりやすく、物語りのあるものを中心に選びました。例えば、犬養毅の書は、明治時代に村長や県議をつとめた人物を輩出した家にあったもので、明治



特別展示の様子

後期に政治的なつながりで犬養から書を送られたと考えられます。文面は、「青^{せいしやう}松^{じゆしやく}多^{おおし}寿色」。意味は、青々とした松はそのままめでたい色をしているというもので、唐の詩人・孟郊の詩です。

なお、犬養の書は町内でもう1件確認されており、中国の唐時代に高石が作詩した漢詩の一節（「心事一杯中」）が記されています。

また、豊後国（大分県）出身で江戸時代後期の儒学者・漢詩人として知られる、広瀬旭^{ぎやくそう}荘の書も町内でいくつか見つかっています。兄の淡窓^{たんそう}も教育者として知られ、宇出津の深見耕三が天保15年（1844）8月12日に、深見元素が弘化2年（1845）6月23日に淡窓へ入門していることが知られています。



犬養毅の書

旭荘は、天保7年（1836）に堺で塾を開き、その後、大坂や江戸を活動の拠点とし、晩年は池田に退いています。安政6年（1859）には北陸に出かけて、越前から加賀に入って松任で越年し、その後は金沢に滞在。さらに、高岡・氷見を経て、能登に入りました。七尾・福浦・門前・輪島を経て宇出津に着いたのは万延元年（1860）5月8日のこと。この日は、若松屋に宿泊し、9日～13日まで角屋庄兵衛方に滞在、14日に元素宅に移っています。15日～17日の3日間小木に逗留し、18日に船で氷見にわたりました。旭荘の宇出津や小木での足跡は詳しくわかりませんが、様々な人々と交流したことが見つかった書の存在からうかがえます。



広瀬旭荘の書



展示の様子

能登町立柳田公民館「文化財レスキュー展」

能登現地本部が置かれている柳田公民館で、9月29日より常設展示として設置したものです。同日開催予定であった「復興フェスタ in 柳田」の展示の一つとして実施予定でしたが、令和6年奥能登豪雨の影響でフェスタが中止となりました。展示は住民で構成されるフェスタ実行委員会より要請があったもので、文化財レスキュー事業の能登現地本部が設置されていることもあり、そのまま単独での展示開催となりました。珠洲焼、古文書、天狗椀、大日本防国婦人会柳田村分会鴨川班旗、郷土アマチュア力士の化粧まわしなどを展示しています。

文化財レスキュー啓発マンガの制作開始

現在、文化財レスキュー活動などにあたる民間団体「いしかわ史料ネット」の企画により、金沢学院大学と金城短期大学部美術学科の学生による文化財レスキュー啓発マンガの作成が進んでいます。10月2日には、能登町教育委員会事務局職員が講師となって金城短大の学生対象を対象に、震災や水害、レスキューの現状について説明しました。



講義の様子

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872

